

「運動遊びチャレンジカード」を作成しました!!

～小学校低学年児童の運動実施時間増加を目指して～



<表面:青森県を歩いてまわろう!>

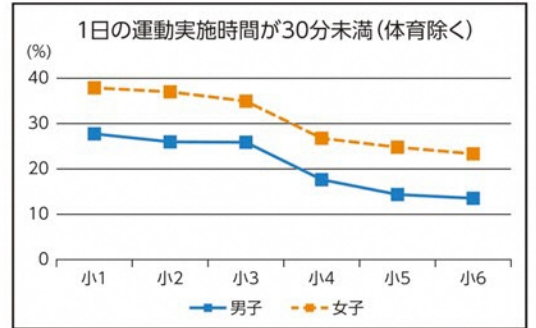


<裏面:運動遊びの例>



運動実施時間を増加 → 運動習慣の定着化へ

- ◇本県児童生徒の体力及び肥満の状況は、10年前と比べると改善傾向にあるものの、全国平均とは依然として差があります。
- ◇体力を保持増進するとともに、肥満を予防するためには、運動習慣の定着化を図ることが大切です。しかし、本県の小学校低学年の子どもたちは、体育を除く1日の運動実施時間が30分未満の割合が高く、運動実施時間の増加が課題となっています。



楽しみながらゴールを目指そう!

- ◇小学校低学年の子どもたちに、もっと気軽に楽しく、体を動かす遊びや運動に取り組んでほしいという願いを込めて「運動遊びチャレンジカード」を作成しました。
- ◇カード表面は、40市町村ゆかりのキャラクターに出会いながら、青森県を歩いてまわるイメージでデザインしました。

使い方

- ・5分間、体を動かして遊んだり運動したりするごとに、丸1個に色をぬれます。
- ※20分間続けて運動したときは丸を4個ぬれます。
- ・ただし、1日でぬれる丸の数は1日6個までとします。

- ◇学校の休み時間や休日等に、カード裏面の「運動遊びの例」も参考にしながら、進んで体を動かし、楽しみながらゴールを目指してほしいと考えています。

カードは令和3年1月に県内全小学校の低学年児童に配布しており、県教育委員会のホームページからもダウンロードできます。

問 スポーツ健康課 体育・健康グループ TEL.017-734-9907 https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/unndouasobi_challenge_card.html

青森市、弘前市、
外ヶ浜町 編

高校生が縄文遺跡でガイドを体験し、文化財の活用方法を考えました!

～令和2年度高校生縄文案内人養成事業を実施しました～

地域の活性化と、将来的に文化財の保存・活用に携わることができる若い世代の人財育成を図るため、令和元年度より北海道・北東北の縄文遺跡群の構成資産である縄文遺跡で活動しているボランティア団体等にご協力いただき、高校生が遺跡でガイドを体験し、その成果を基に文化財の活用方法を提案してもらう「高校生縄文案内人養成事業」を実施しました。※人は青森県にとっての「財(たから)」であることを基本的な考え方としており、「人材」を「人財」と表記しています。

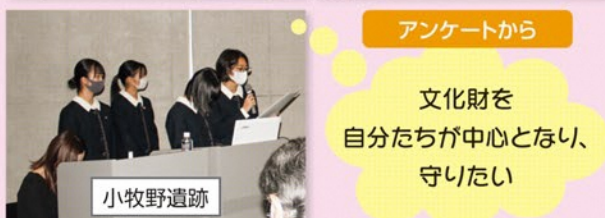
縄文遺跡での案内人体験

文化財について基本的な講座を受講した後、縄文遺跡で自分たちが考えた内容で実際にガイド体験をしました。



学習成果発表会

ガイド体験の成果や文化財の活用方法をスライドやレポートにして発表会を行いました。活発な意見交換も見られました。



アンケートから

文化財を自分たちが中心となり、守りたい

高校生が考えた活用案

マスコットを活用したグッズ開発

紙芝居を使った高校生による課外授業

縄文ルートのマラソン大会

縄文とゲームのコラボ

縄文ガチャガチャの作成



縄文カフェをつくる

大森勝山遺跡をイメージした「大盛カツ山カレー」(弘前実業高校考案)

縄文ファッションショーの開催

地元バス会社とバスツアーをつくる

縄文アイドルをつくる

地元特産品を活用した商品開発

問 文化財保護課 TEL.017-734-9920 <https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/koukousei-jomon-annainin.html>